

ぐるめ散歩

居酒屋

居酒屋 喜作

岩手県の郷土料理を中心に三陸の魚介類を使った一品料理と地酒が手頃な値段で楽しめる。

季節の海鮮を中心に創作料理など常時50種以上のメニューがある。イワシの刺身、生ガキ、ホヤ、ジャンボかき揚げのほか、タラの芽、ワラビ、ゼンマイなど季節の山菜料理が人気。焼き魚定食などの定食類やシメの支那そばなども好評だ。

店主の小野岩治さん(67)は岩手県二戸市出身で中学卒業後に上京、和食を中心とした有名店など



小野さん

岩手の郷土料理と三陸の魚介類を提供 オリジナル料理など豊富なメニュー



で修行した後、昭和54年から狛江の割烹で働き、60年に猪駒通りに居酒屋をオープン、平成14年に現在の場所へ移転、来年は独立40年を迎える。川崎市中央卸売市場北部市場で仕入れた魚介類など新鮮な食材に加え、郷里の二戸市から山菜やきのこなど季節の野菜、地

☎3430-7388 東和泉3-6-4シャムポール和泉B1F 営業=午後5時~11時 火曜休み



元でしか入手しづらい地酒も取り寄せている。

カウンター10席、テーブル2卓、小上がりにテーブル2卓の合わせて30席あり、小野さんが工夫したオリジナルの創作料理を目当てに訪れる常連客でにぎわいをみせる。

小野さんは地域の祭りや行事に参加するなど顧客とのコミュニケーションを大切にしており、岩手出身の人もよく集まるという。

小野さんは「スピード、サービス、スマイルの3つのSで喜んでもらうようにしています」と話している。

※「わっこを見た」と言うとドリンク1杯をサービスする。

おすすめMENU

- ①ジャンボかき揚げ¥850
 - ②イワシ刺身¥550
 - ③ほや¥650
 - ④生ガキ1個¥450
- ／串焼き各種¥150 / 山ワサビ丼(味噌汁付き)¥650 / 味の志那そば¥650 / 海老天ぶら¥750 / 焼き魚定食¥800 / 刺身定食¥1,400 (税別)



花の絵手紙を手向ける参加者

花の絵手紙で別れ告げる 小池邦夫を偲ぶ会

昨年8月31日因に82歳で亡くなった狛江市名誉市民で絵手紙創始者の小池邦夫さんを偲ぶ会の献花が2月28日因と29日因にエコルマホールで行われた。

一般社団法人日本絵手紙協会と狛江市が主催したもので、会場にあてられた大ホールの舞台には遺影を取り囲むように約2,000枚の

絵手紙で作った祭壇が設けられた。

28日の式典では絵手紙協会の登坂和雄会長、狛江市の松原俊雄市長、夫人の小池恭子さんらが挨拶、故人の業績やエピソードを紹介すると共に「絵手紙を100年残したい」という小池さんの遺志を継いでいくことを誓っていた。

会場には絵手紙愛好家など2日間約1,300人が訪れ、花をかけた絵手紙を祭壇に手向け別れを惜しんだ。

外国人の日本語スピーチ大会 15人が日本文化などを語る

外国人による日本語スピーチ大会が3月10日因に中央公民館で催され、子どもから大人まで15人が参加した。狛江市国際交流協



達者な日本語でスピーチする外国人の参加者

会が催しているもので、今年で18回を数える。

出演者は日本の文化や食べ物、日常生活で気付いたこと、故国のお祭りなど様々な話題を取り上げ、それぞれ5分間、達者な日本語で約60人の聴衆に語りかけた。

国際交流協会の吉野琢也会長ら3人が審査を行い、東京たまがわロータリー・クラブ賞、国際ソロプチミスト東京-狛江賞、狛江市国際交流協会会長賞各1人のほか、優秀賞が12人に贈られた。

ソーセージ職人ヘルマンさん 業績伝える紙芝居2点制作

「ハム・ソーセージでドイツと日本を結んだーヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会(略称・ヘルマンさんの会)(飯田吉明会長)が、その業績と生涯を多くの人に知ってもらおうと、2点の紙芝居を制作した。

同会は、ヘルマンさんの生誕120年、没後50年にあたる平成25年に発足。ヘルマンさんに師事した食肉技術者やソーセージを食べたことのある人から聞き取り調査などを行うほか、講演会などを開催、調査報告書を出している。

同会では、かつて狛江で多くの人に親しまれたヘルマンさんを知る人が少なくなり、このまま忘れ去られないため子どもたちにその業績を伝えようと数年前に紙芝居の制作を企画した。

昨年7月に同会有志で「紙芝居部会」をつくり、紙芝居に使うヘルマンさんの足跡やエピソードの整理、対象年齢などについて検討してきた。

幼児から小学校低学年向けの紙芝居は、調布市在住で元狛江第五小学校校長の石谷清隆さんが描いた「ヘルマンさんとソーセージ」、小学校高学年から大人向けは、八王子市在住の田中尚子さんが描いた「ヘルマンさんのおはなし」の2点。いずれもB3判の画用紙や紙芝居専用紙にクレヨンなどで描いた。

どちらの紙芝居にも、ヘルマンさんが明治26(1893)年にドイツのブランデンブルク州ラウノ(現ゼンフテンベルク市)に誕生してから第一次世界大戦の捕虜として日本に連れてこられ、日本でソーセージ職人として活躍、90年前にベーブ・ルースが来日した時に甲子園球場でホットドッグを販

売したことや、狛江にあった工場、泉龍寺にある墓などを取り上げている。低学年向けは、狛江とヘルマンさんの関わりを中心に12枚、高学年向けは、関東大震災、第二次世界大戦中の長野県での幽閉なども盛り込み26枚にまとめ、同会が監修にあたった。

石谷さんは五小校長だった時、新入生に自作の紙芝居を見せていた。田中さんは、八王子市出身で、ドイツで医療活動を続けた肥沼信二郎医師やトロイなどの遺跡発掘で知られる考古学者シュリーマンの紙芝居を描いた。両氏の活動を知った会が製作を依頼した。

2点の紙芝居は3月16日因に泉龍寺仏教文庫で会員に披露され



(左から) 田中さん、飯田会長、石谷さん

好評だった。今後は市内の保育園や学校などで子どもに見せる予定だ。同会では、ドイツ語版を制作し、ラウノ市の子どもたちにも見せたいと構想を膨らませている。



事業を紹介した展示や講演会 移転前にこまえくぼ1234で

4月から市役所に移転した狛江市市民活動センターで、3月9日因に「第5回こまえくぼ1234フェスティバル」が開かれた。

駐輪場では、市内の社会貢献事業所の物品、愛知県西尾市のうなぎと茨城県境町の野菜や干し芋などが販売され、人気のうなぎはすぐに売り切れた。センター内では、狛江市と健康増進に関する協定を結ぶ大塚製薬社員の中紙拓也さんが「熱中症で体調をくずさないために」をテーマに講演した。移転前に同センターの活動の軌跡を知ってもらおうと主催事業のちらしや写真が展示され、来場者が熱心に見入っていた。

噴水ステージでお別れの駅前ライブ



書道パフォーマンス

回が最後となり、今後はえきまえ広場などで続けられる。

この日は、市内在住で中学3年生(当時)の山本美桜さんが「メモリー」「アイノカタチ」など4曲を熱唱した。続いて、普段はライブの裏方を務めている「音楽の街-狛江 エコルマ企画委員会」のプロ



ストリートピアノ

の音楽家たちによる演奏や書道パフォーマンスも行われ名残を惜しんだ。ライブに続いてストリートピアノも置かれ、青空の下で演奏を楽しむ姿も見られた。

つなげよう 音楽の架け橋

駅前ライブが3月2日因に狛江駅北口交通広場の噴水前ステージで催された。この周辺が改修で撤去されるため、このステージでは87回目の今



山本さん